

## 第4節 その他構内の立会調査

### 1 ボート艇庫合宿研修所整備に伴う立会調査

調査地区 宇部市大字小野字土井  
調査期間 昭和59年4月27日  
調査方法 工事施工前における試掘立会調査  
調査面積 約0.5㎡

調査に至る経過 合宿所は小野湖の中央部東岸に位置する丘陵上にある。この地は今まで埋蔵文化財の調査が全く行なわれておらず、その有無が明らかでないことから、またこの周辺で時期不詳ながら有孔石製品が採集されている事実も<sup>1)</sup>勘案し、今回初めて工事に際し調査した。

調査結果 本工事は生活排水浄化槽設置であり、調査はその工事範囲内の二カ所において、人力による小規模な試掘を行ない土層の観察をした。その結果、表土以下は直ぐに地山であり、当地域では仮に過去において遺物包含層、遺構が埋存していたとしても、既往整備時に削平され消失している蓄然性が高い。 (森田)

〔注〕

1) 当資料は、現在山口大学埋蔵文化財資料館に収蔵されている。石錘の可能性はある。

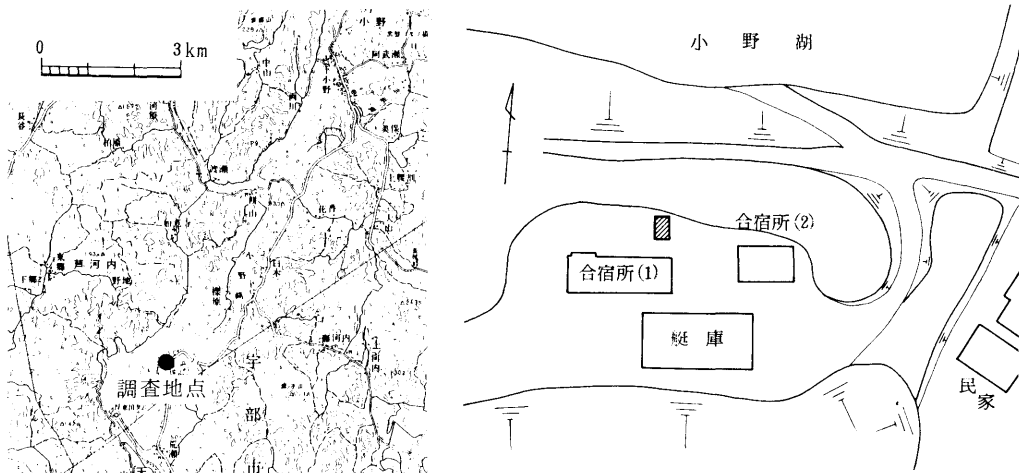


Fig. 35 調査区位置図

2 ヨット部艇庫合宿研修所整備に伴う立会調査

調査地区 よしきぐんあいお 吉敷郡秋穂町東字中道

調査期間 昭和59年4月27日

調査方法 工事施工前の視察調査

調査結果 山口大学の各附属施設は県内各地に分散しており、今回調査を実施した吉敷郡秋穂町所在のヨット部艇庫もそのひとつである。当該地区は中道湾の最奥部に位置し、西方約250 mの低丘陵上にある中道古墳をはじめとして、標高約150 mの小山塊から派生する周辺の丘陵上には筈倉古墳、尻川古墳等が確認されている。また、東方には須恵器、土師器の遺物包含地である赤石遺跡が知られており、当該地域周辺には古墳時代を中心とした諸遺跡が分布している。さらに、古墳時代の製塩遺跡として著名な美濃ヶ浜遺跡が秋穂湾を隔てた対岸に所在する。

工事はヨット部艇庫合宿研修所周囲のフェンス設置およびヨット搬入出の際利用されるスロープ改修に伴うものであるが、北から中道湾にのびる丘陵が合宿研修所新営の際、挿鉢状に削平され、旧地形は殆んど残存していない状況であった。したがって、今回の調査は主として、削平された崖面での土層堆積状況の断面観察および周辺地域における遺物の散布状況を観察した。その結果、厚さ約10~15 cmの腐蝕土直下に花崗岩媒乱土である地山が検出された。また、南端の海浜部では磨滅した須恵器、土師器が採集され、遺構ないしは遺物包含層の存在を予想させた。(河村)

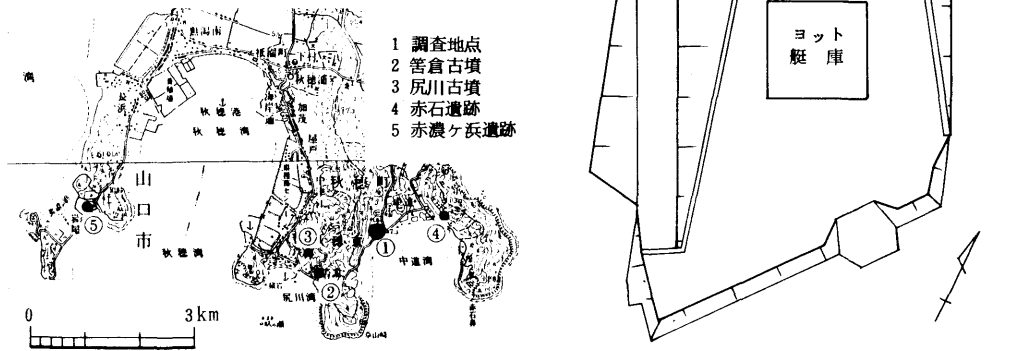


Fig. 36 調査区位置図